

## 完成

2012年2月20日作成 故 高橋 さと子 様

使用日：通夜 2012年2月20日

過去という時の流れには、誰しも思い出が詰まっています。

人は、その時の流れに導かれ、それぞれの人生を歩んできたのです。

雨に濡れた新緑に見送られ、

平成24年2月18日、高橋 さと子 様が、その人生の幕を降ろし、  
ご生涯を閉じられました。

そこには光と影に映し出された52年の歴史があります。

振り返れば昭和32年8月14日、

父 一郎 様 母 清子 様の長女として

埼玉県で産声を上げられました。

葬祭学園高等学校から葬祭学園短期大学に進み、仏文科で学びました。

フランス語が好きでフランス語の勉強や会話は、

ずっと趣味の一つとして続けられました。

短大卒業後、東貿易商社に就職。社会人としての第一歩を踏み出しました。

働くことの大切さに加え、厳しさや大変さも実感したことでしょう。

幾多の喜びと悲しみが交差し、七色に描き出される人生模様…。

誠実に仕事に取り組んでいらっしゃいましたが、病気のため退職。

その後、銀座デパートなどでお仕事をなさっていました。

昭和57年9月に 俊夫 様とご結婚。

移りゆく年月とともに、慶子様、嘉子様のお二人の子宝を授かり、

親の喜びに満たされる日々を過ごしました。

とてもやさしい思いやりのある性格でした。

また、自分の意思を伝えることのできるしっかりした面も持っていて、

役所などの手続きや交渉などでは、家族に頼りにされていました。

※主に枠内がオリジナルの文章を追加した部分です。  
その他は、FUNETで構成した文章です。

ビートルズやポリスなどの洋楽を鑑賞するのが楽しみの一つ。  
多感な青春時代にヒットしたこれらのアーティストの曲を聴くと、  
胸が熱くなったり、また、癒されたりと、  
心の琴線を揺さぶられていたそうです。

時計の針を過去へと戻し、懐かしい思い出を辿れば、  
数え切れないほどの思い出が残されました。  
人生50年と言われていた時代もありましたが、  
今の日本の長寿社会からみれば…、  
もっと一緒にいたかったという思いが湧いてまいります。  
ご家族にとってはかけがえのない存在でした。  
今はその良い面だけが思い出されるそうです。  
また、ふと、家の2階から笑って「お母さん」と言いながら降りてくる  
ような気がしてならないそうです。

ご遺影は、慶子様の成人式の時に撮った1枚。  
純粹な気持ちを大人になっても持ち続けていたのではないのでしょうか。

そして今、祭壇のお写真がご参列の皆様へ感謝と別れを告げています。  
人はこの世に生を受けたなら、必ずその源へと帰って行くのです。  
遠くからではありますが、  
これからはご家族の健康を守ってくれることでしょう。

新しい季節を故人と共に迎えることは出来なくなりましたが、  
めぐる月日の折々に故人を思い出していただければと思います。  
決して忘れることの出来ない思い出が、人生にはあります。  
そして、その思い出は永遠に輝き続けます。

---